

「新・地域づくり推進基本方針」 策定に向けた検討について

第3回 地域づくり推進基本方針改定懇談会
令和6年(2024年)1月22日

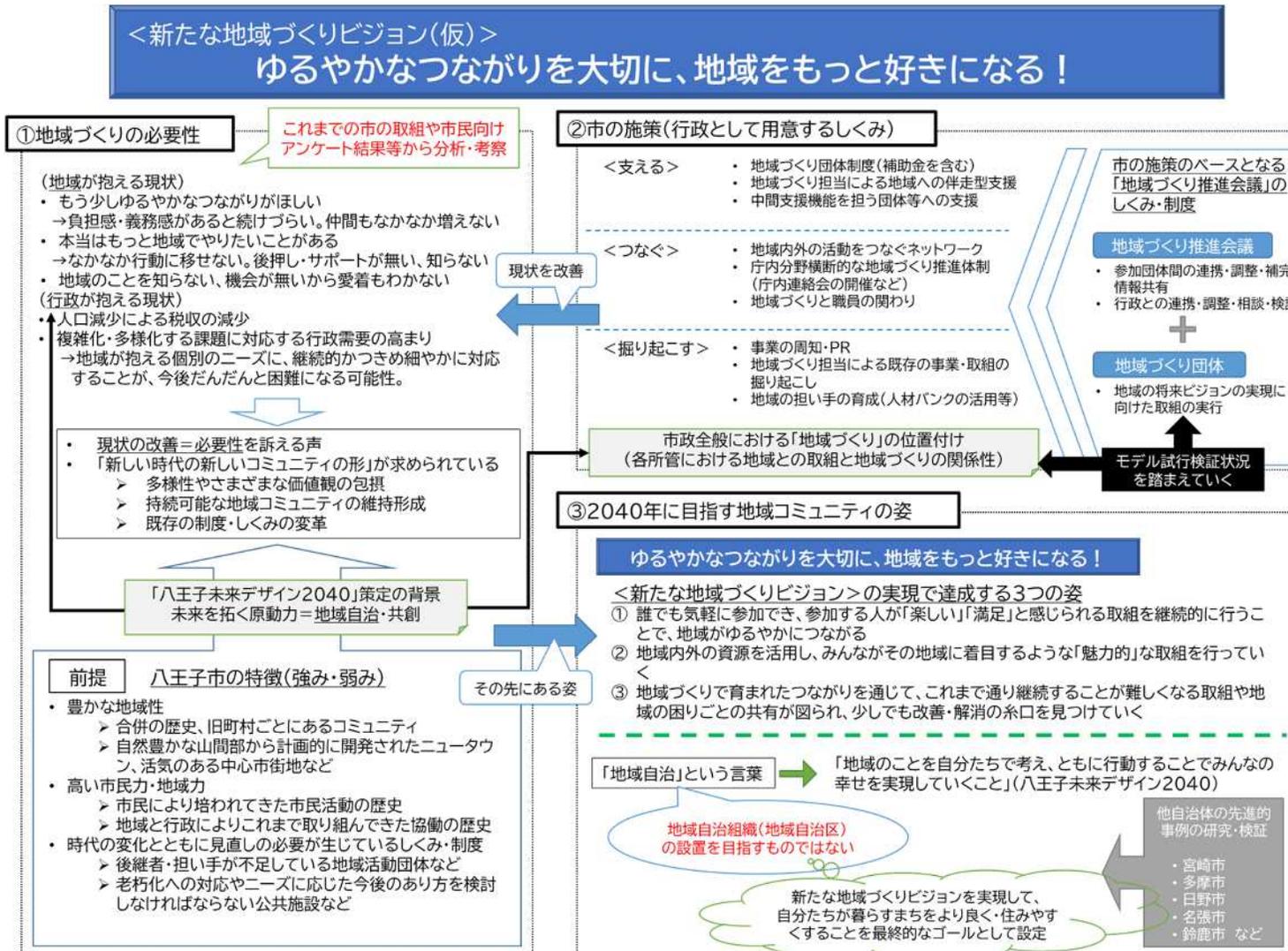
目次

- 1 新・基本方針の全体像
- 2 市の施策(= 行政として用意するしくみ)
- 3 推進会議参加者向けアンケート結果
- 4 スケジュール・今後の予定

1 新・基本方針の全体像

全体像 (事務局案)

資料2として配布



今後の議論の順序



2 市の施策(= 行政として 用意するしくみ)

地域づくりとは

地域が主体的に地域の魅力や課題を把握し、その向上や解決に向けて、地域の多様な活動団体や住民同士、地域と行政が協働していくためのしくみを構築しながら、地域自治の推進を図ること

このしくみを整備することが、行政の役割

3つのしかけ

地域が主体的に活動するための支援策として、市は「3つのしかけ」を設定し、それに基づく具体的な取り組みを打ち出していく。

◆ 「支える」しかけ [対象:地域]

人・もの(居場所など)・資金等の支援・助成

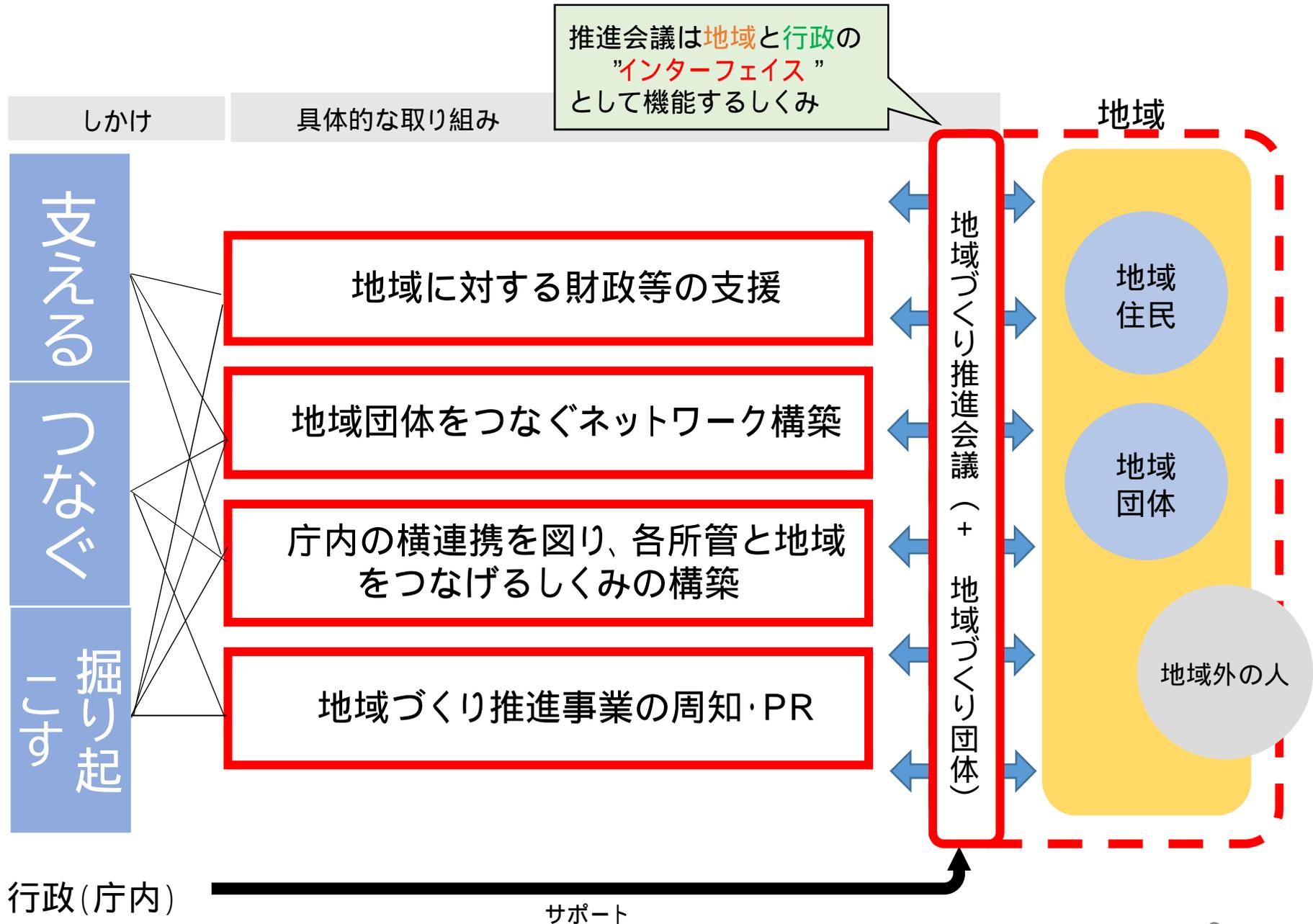
◆ 「つなぐ」しかけ [対象:庁内、地域]

地域内外・地域間交流を促し、協力したり助け合える関係を作る

◆ 「掘り起こす」しかけ [対象:庁内、地域]

地域で活躍できる新たな人材の発掘、能力の開発

2 市の施策(=行政として用意するしくみ)



具体的な取り組み(その1)

「地域づくり推進会議」の位置づけ

- ◆参加者及び団体間の連携・調整・補完・情報共有を行う
- ◆行政との連携・調整・相談・検討を行う
- ◆地域課題や困りごとの共有、その対策について検討する

「地域づくり団体」の位置づけ

- ◆推進会議に参加する地域住民等が主体となって、地域の将来ビジョンの実現に向けた取組(イベント等)を実施する
- ◆イベント等を通して、これまで地域と接点がなかった層、無関心な層の目を地域に向け、地域とのゆるやかなつながりをつくる効果を期待するもの
- ◆地域外からの参加も見込むことで、より広いつながりを創出していく

< 補足 > 地域づくり推進会議と地域づくり団体の概要

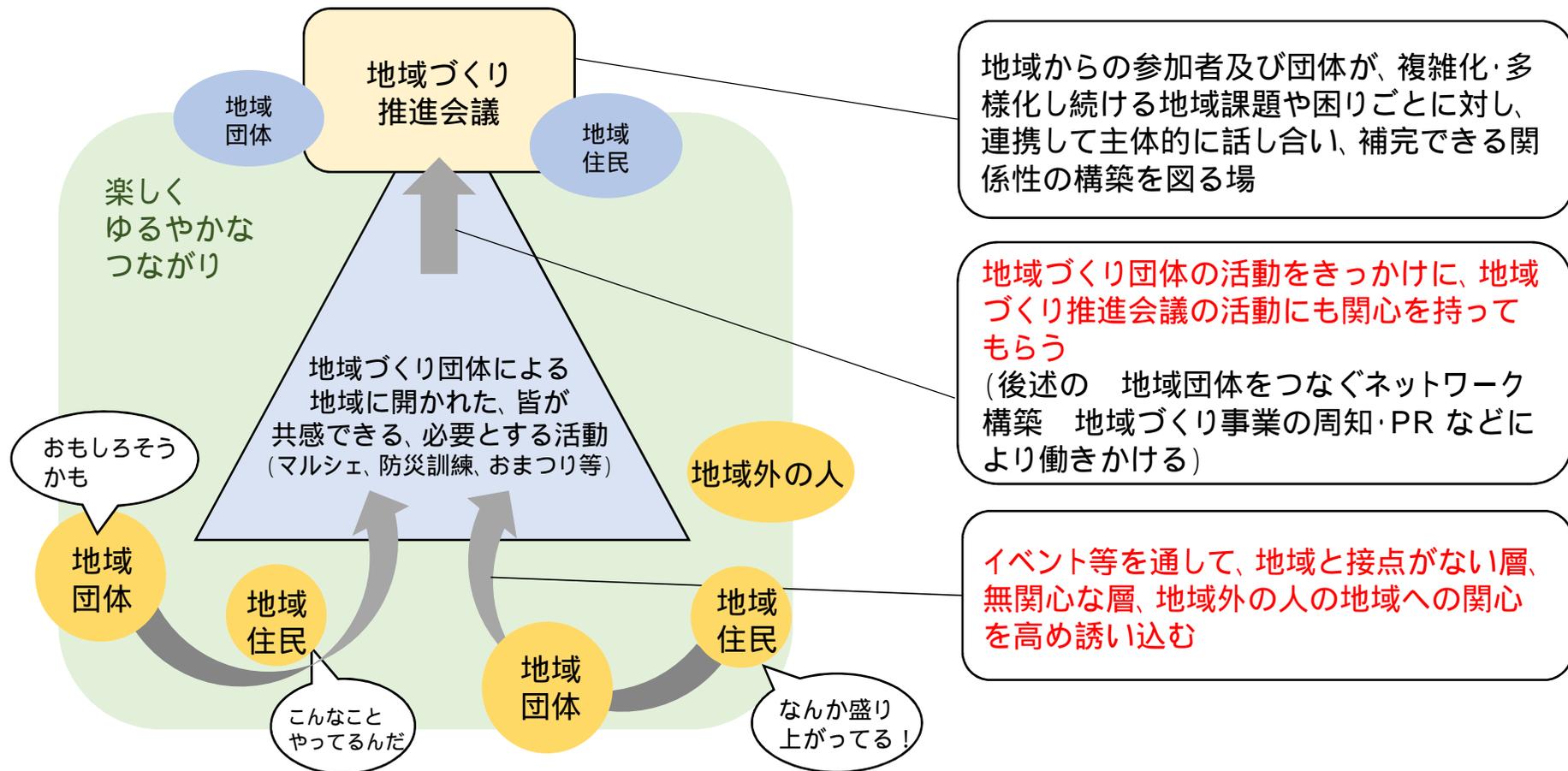
既存体制の整理 + 新たな要素

| | 地域づくり推進会議 | 地域づくり団体 |
|------------|---|--|
| 設置目的 | 地域からの参加者及び団体が、複雑化・多様化し続ける地域課題や困りごとに対し、協力して主体的に取り組める 地域共通の場 を設け、 関係性の構築を図ること | 地域のつながりの希薄化、担い手不足対策の一環として、 イベント等を通して、地域と接点がない層、無関心な層、地域外の人への地域への関心を高め、「楽しくゆるやかにつながる地域」を実現すること |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> 参加者及び団体の連携・調整・補完・情報共有 行政との連携・調整・相談・検討 地域課題や困りごとの共有及びその対応について検討 | 地域に開かれた、皆が共感できる、必要とする活動・イベント(マルシェ、防災訓練、おまつり等)の実施運営 |
| 設置方法 | <ul style="list-style-type: none"> 当面は市が、設置する中学校区を決定、設置運営に当たり伴走支援 将来的には、地域が主体的に設置を判断 単位は中学校区を基準としつつ、地域の判断で自由に決定できる | 地域づくり推進会議での議論をもとに、地域が設立を決定できる 設立義務はない。 |
| 根拠 (現在) | <ul style="list-style-type: none"> 地域づくり推進基本方針 地域づくり推進会議モデル試行実施要綱 | <ul style="list-style-type: none"> 地域づくり団体の届出に関する要綱 地域づくり推進事業補助金交付要綱(3年間の時限的措置) 改定後は基本方針にも明記予定 |



さらなるモデル検証を通じて、地域にとってより議論・活動しやすく、持続可能なスタイルを模索していく

<補足> 地域づくり推進会議と地域づくり団体の関係



具体的な取り組み(その2)

地域に対する財政等の支援

支える、掘り起こす

- ◆地域が地域づくりに取り組んでいく上で、情報提供やアドバイスなど、必要な支援を行う
- ◆地域づくり団体の活動について、補助金制度を創設し、財政的に支援する
- ◆地域と行政の中間支援機能を担う団体等を発掘し、支援することで、地域の主体的な活動を後押しする

つなぐ、支える、掘り起こす

効果が大きい
順に列挙

地域団体をつなぐネットワーク構築

- ◆すでに地域で活動している団体(町自連や青少対の他、NPO法人など個別の活動を含む)を網羅し、つなぐネットワークを構築
 - 今ある地域資源をとりこぼすことなく活用することが目的
 - 地域が主体的に地域づくり推進会議や地域づくり団体を運営するため、活用できるツールとして市が用意する

具体的な取り組み(その3)

庁内の横連携を図り、各所管と地域をつなげるしくみの構築

つなぐ、掘り起こす、支える

- ◆所管同士が**分野にとらわれず**、地域を軸とした情報共有を行い、庁内において**横串を通した連携**を行う「**庁内なんでも連絡会(仮称)**」を実施
 - 地域へ伝える情報を整理し、伝え漏れや重複を防ぐことで、地域と庁内両方の負担を軽減できる
 - 職員が積極的・継続的に利用するよう、掲示板やTEAMSも活用
 - 地域づくり担当がコーディネーター的役割を務めることで、庁内分野横断的な取り組みにつなげていく
- ◆人財育成基本方針と連携した「**人とつながり、共創する**」**職員**の育成
 - 多様な主体と協働し、対話と共感から、共に新たなソリューション(解決策)を創出
 - 積極的に地域に出向き、市民目線で課題を掘り下げ、分野や領域を超えた組織間で課題を共有
 - 対話力や合意形成に向けたファシリテーション力、調整力などを向上

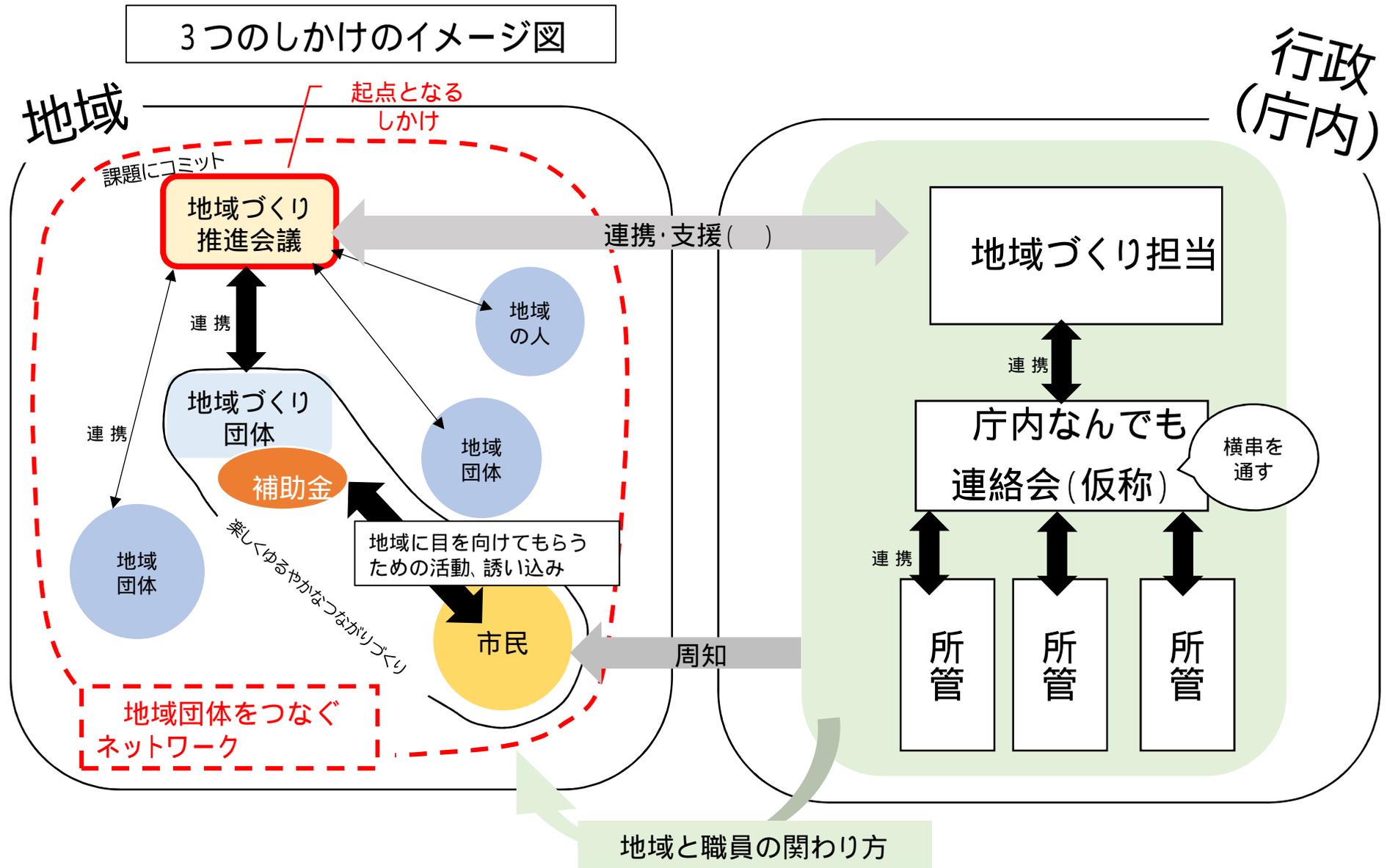
具体的な取り組み(その4)

地域づくり推進事業の周知・PR

掘り起こす、つなぐ

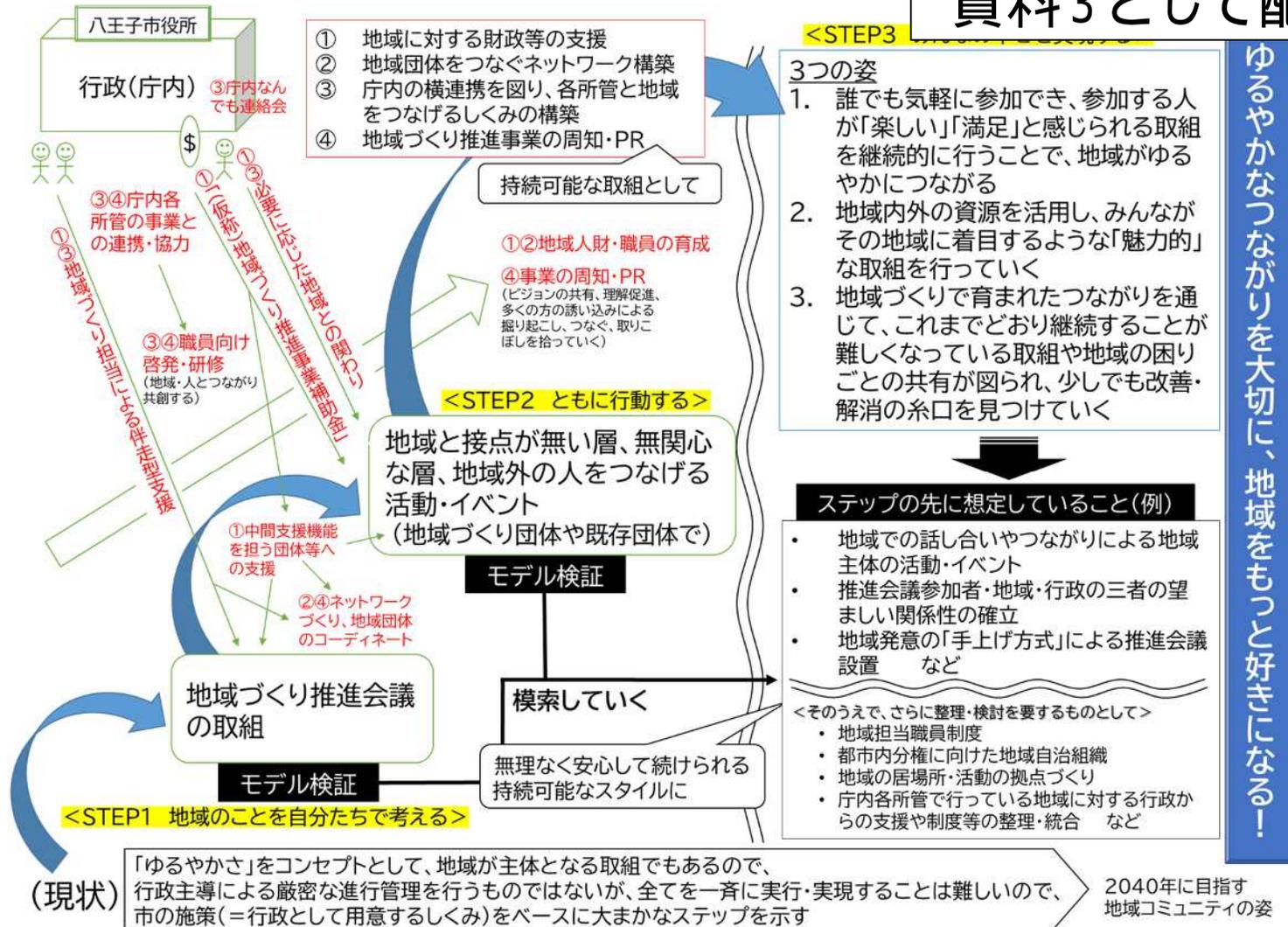
- ◆地域づくり推進会議や地域づくり団体の活動について、地域と接点がない層、無関心な層や、地域外も意識して、周知やPRを行う
- ◆地域づくり担当が周知・PRの担い手として、地域団体やイベントに来ている地域住民に、地域づくりについての「営業活動」を行う
- ◆地域づくり推進会議参加者と協力し、「楽しさ」、「ゆるやかさ」を意識して誘い込む
- ◆庁内的な事業周知・PRにも努める

2 市の施策(=行政として用意するしくみ)



ロードマップ(事務局案)

資料3として配布



3 推進会議参加者向け アンケート結果

結果の概要

資料4として詳細資料配布

目的

「八王子市地域づくり推進基本方針」の改定における検討の参考とするため。

内容

結果の詳細は、別添「資料4」のとおり

対象

長房、川口、みなみ野及び南大沢中学校区の推進会議参加者
(対象人数:85)

実施期間

令和5年(2023年)12月2日、9日及び16日に開催した各中学校区推進会議にて実施

欠席者等については、後日郵送等での提出を依頼

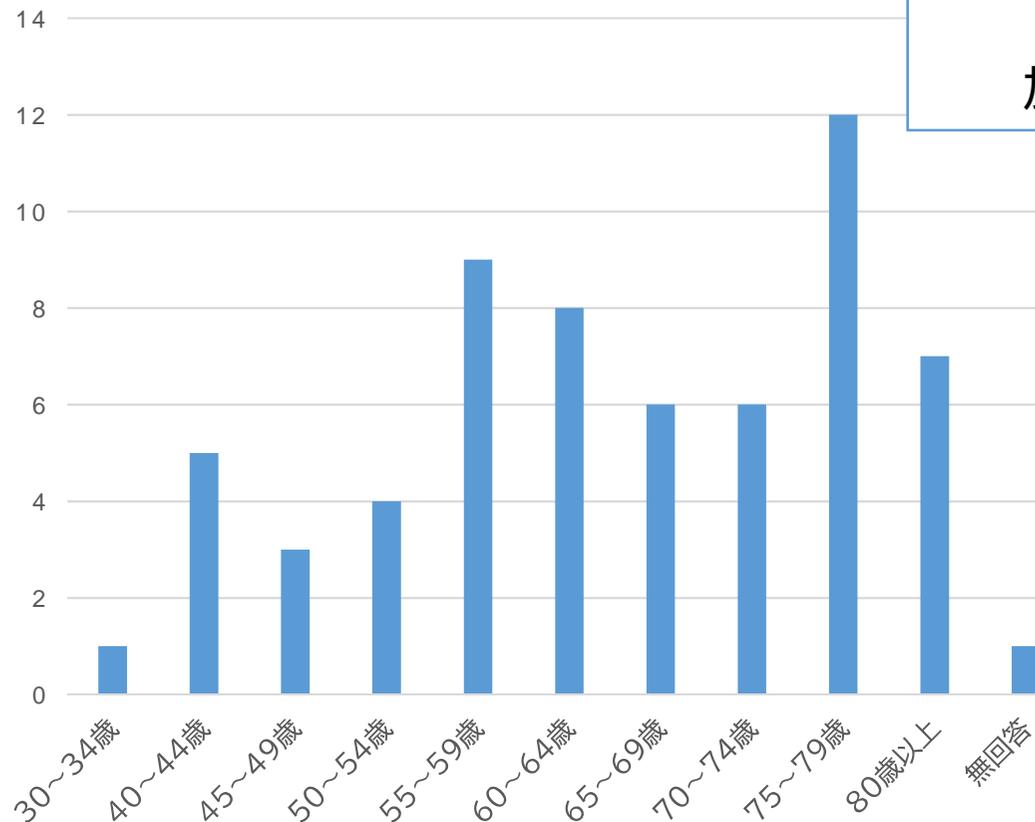
回答状況

回答件数:62件、回答率:72.9%

分析・考察

1 推進会議参加者の年齢

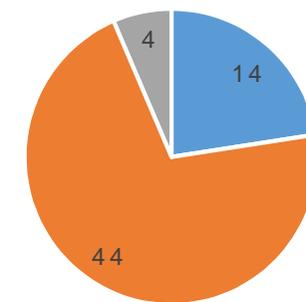
回答者の年齢区分(n=62)



- ◆ 75～79歳が最も多く、次いで55～59歳。30歳未満はいない。
- ◆ 推進会議の構成を適切と考えている人は少ない。

参加者においても、若者世代の参加を求める意見は多い。

推進会議の構成として参加者の年齢層をどのように感じるか(n=62)

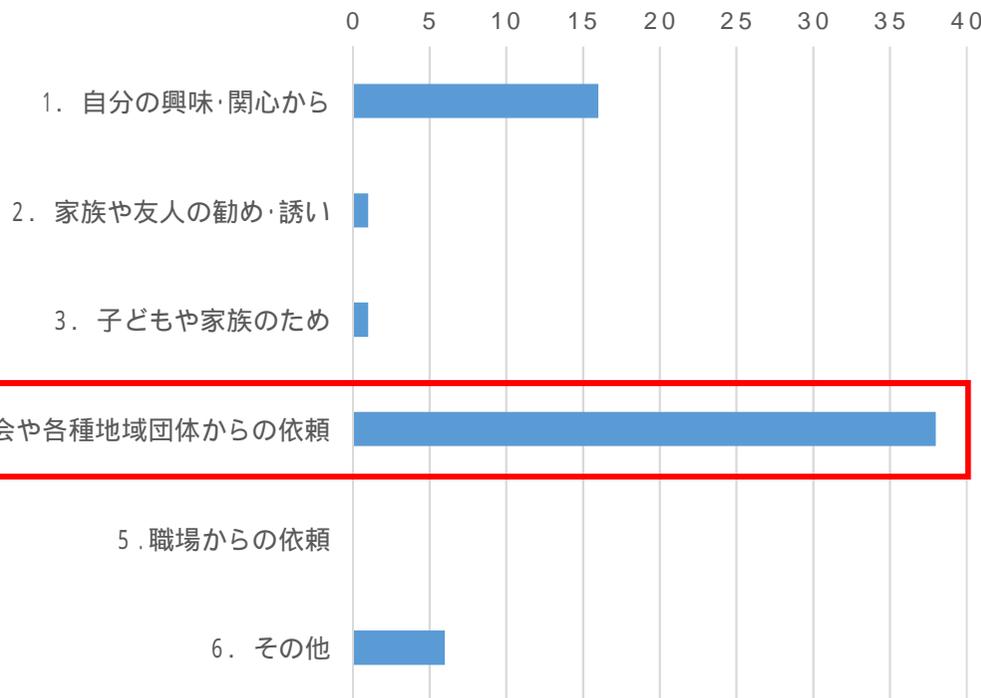


■ 1. ちょうどよい ■ 2. ちょうどよいとは言えない ■ 無回答

分析・考察

2 推進会議への参加理由

回答者における推進会議への参加理由
(n=62)



- ◆ 団体等からの依頼による参加が最も多い。
- ◆ 参加者が所属している団体は、町会自治会、学校運営協議会・小中学校PTAの順に多い。

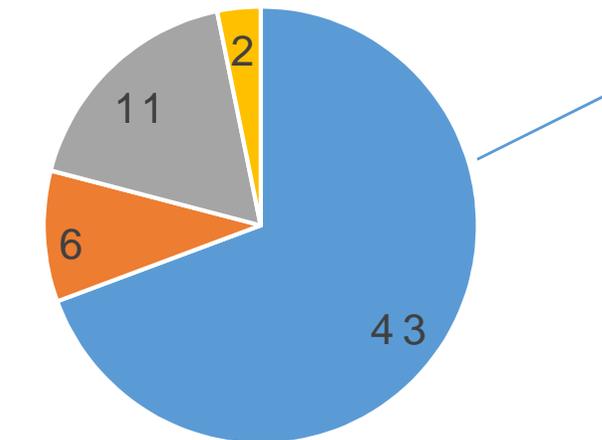
【参加者の所属団体】

| | |
|-----------------|----|
| 町会自治会 | 29 |
| 住民協議会 | 11 |
| 民生委員児童委員協議会 | 9 |
| 青少年対策地区委員会 | 18 |
| 学校運営協議会・小中学校PTA | 28 |
| 消防団 | 2 |
| 市民活動協議会(NPO法人) | 12 |
| 地域福祉団体 | 9 |
| 市民環境団体 | 2 |
| 商工会議所・青年会議所 | 1 |
| 高校・大学・大学院・専門学校 | 1 |
| その他 | 11 |

分析・考察

3 期待感の有無(理由)

地域づくりの取組が期待できるものかどうか
(n=62)



- 1. 期待できる取組である
- 2. あまり期待できる取組ではない
- 3. 分からない
- 4. 無回答

◆ 半数以上が地域づくりの取組には期待感をもって参加している。

ただし、参加のモチベーションを有する回答者を対象にしたアンケートであることを考慮する必要がある。

(理由記述欄)

- 自分の住む地域を見つめ直す機会にも
- 地域内各層のメンバーと交流をすることにより、地域の課題をより鮮明に捉える場が出来た
- 高齢者や少子化が進みいろいろな解決すべき諸問題が発生しており、タイムリーな取組とを感じる。
- 新たな行政と地域のシステムを創るため
- 地域と行政の対話の接点という新たな機能が生まれる
- 防災、子育て、福祉、全般的に地域が中心にならないといけない
- 面的なコミュニティと団体間の連携を期待できる
- 様々な立場や年齢の方の意見が交換でき、検討・反映に繋がる可能性が大きい取組

分析・考察

4 「地域カルテ」と「地域づくり推進計画」の作成意義

【地域カルテについて】

| | 長房 | 川口 | みなみ野 | 南大沢 | 総計 |
|----------------|----|----|------|-----|----|
| 1. 有意義に感じる | 6 | 4 | 15 | 10 | 35 |
| 2. あまり有意義に感じない | 11 | 5 | | 1 | 17 |
| 3. 分からない | 3 | 6 | | 1 | 10 |

【地域づくり推進計画について】

| | 長房 | 川口 | みなみ野 | 南大沢 | 総計 |
|----------------|----|----|------|-----|----|
| 1. 有意義に感じる | 8 | 6 | 13 | 8 | 35 |
| 2. あまり有意義に感じない | 6 | 7 | 1 | 1 | 15 |
| 3. 分からない | 5 | 2 | 1 | 3 | 11 |
| 無回答 | 1 | | | | 1 |

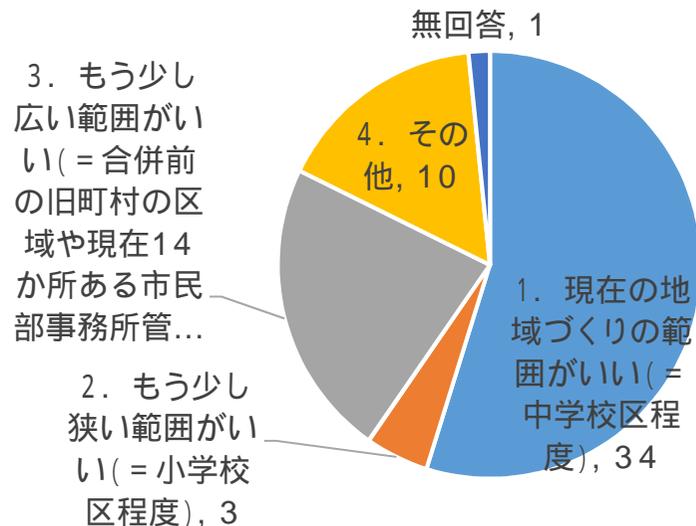
- ◆ カルテ及び計画の両方で、「有意義に感じる」が最も多い。
- ◆ 中学校区別にみると、モデル地区(長房及び川口)では、「あまり有意義に感じない」が多く、みなみ野及び南大沢では少ない。

計画策定後の取組にあたり、カルテや計画の内容をどう活かすか？

分析・考察

5 単位(中学校区)の妥当性

推進会議の範囲をどのように感じるか(n=62)



- ◆ 全体的にみると、過半数の参加者が現在の範囲が妥当だと回答。
- ◆ 中学校区より狭い範囲(小学校区など)を望む意見は少ない。
- ◆ 中学校区別にみると、川口中学校区では、「もう少し広い範囲がいい」が最も多い。
 檜原中学校区との連携を視野に入れた回答と史料。

| | 長房 | 川口 | みなみ野 | 南大沢 | 総計 |
|--|----|----|------|-----|----|
| 1. 現在の地域づくりの範囲がいい(=中学校区程度) | 13 | 4 | 7 | 10 | 34 |
| 2. もう少し狭い範囲がいい(=小学校区程度) | 1 | 2 | | | 3 |
| 3. もう少し広い範囲がいい(=合併前の旧町村の区域や現在14か所ある市民部事務所管内程度) | 2 | 6 | 5 | 1 | 14 |
| 4. その他 | 3 | 3 | 3 | 1 | 10 |
| 無回答 | 1 | | | | 1 |

分析・考察

6 地域づくり(推進会議)に期待すること

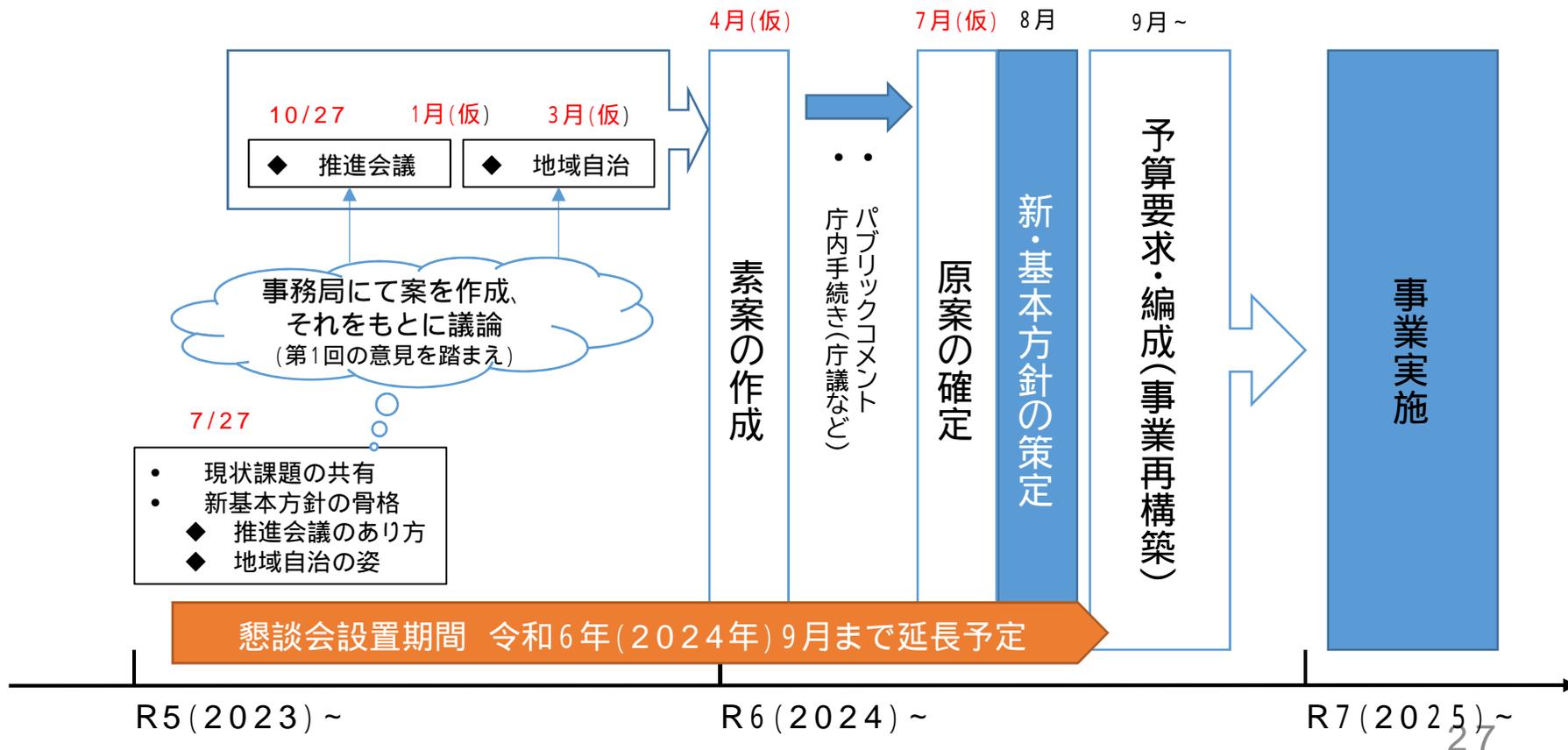
| | 長房 | 川口 | みなみ野 | 南大沢 | 総計 |
|----------------------------------|----|----|------|-----|----|
| 地域の魅力や困りごとに関する共有・意見交換 | 2 | 2 | 1 | 1 | 6 |
| 地域の活動団体や住民の間における連絡調整 | 2 | 1 | 1 | 4 | 8 |
| 地域の担い手の掘り起こし・つながりづくり | 8 | 2 | 9 | 2 | 21 |
| 地域と行政との連携・調整 | 3 | 2 | 3 | 3 | 11 |
| モデル試行の強みを生かした「八王子版地域自治」の議論・検討・実行 | 2 | 6 | | 2 | 10 |
| 地域の魅力や困りごとに関する議論を踏まえた取組実行 | 3 | 1 | 1 | | 5 |
| 無回答 | | 1 | | | 1 |

- ◆ 全体的にみると、「地域の担い手の掘り起こし・つながりづくり」が最も多い。
- ◆ 中学校区別にみると、川口では、「『八王子版地域自治』の議論・検討・実行」が最も多く、南大沢では「地域の活動団体や住民の間における連絡調整」が最多。
地域ごとに推進会議の理想のスタイルが異なる可能性。
地域の特性やニーズに合った行政の支援が必要であることを示唆。

4 スケジュール・今後の予定

改定スケジュールの再設定

前回懇談会(10/27)で提示したスケジュール



改定スケジュールの再設定

改定スケジュールの再々設定案

